

名古屋音楽大学 特別公開講座

ファン・ホセ・チュキセンゴ  
(ピアノ)

explorations around musical phenomena  
音楽的現象をめぐる探究

2010年10月6日(水)  
開演 16:20 ~ 17:50  
(開場 16:00 ~)

名古屋音楽大学 めいおんホール(博覧館4階)  
入場無料(要整理券)

演奏曲目は当日発表

主催:名古屋音楽大学

後援:ペルー大使館

<http://www.meion.ac.jp>

<http://www.embajadadelperuenjapon.org/>

**Profile** ファン・ホセ・チュキセンゴ(ピアノ)

ペルーのリマに生まれる。

5歳からピアノを始め、ペルーの国立音楽院でピアノを Elena Ichikawa 氏に師事すると共に、作曲及び指揮を学ぶ。

ドイツ政府の奨学金を得て渡欧し、Hochschule fuer Musik de Munich で Klaus Schilde 氏に、ベルリンで Gyorgy Seboek 氏にピアノを学ぶ。有名な指揮者の Sergio Celibidache を知る。その後ドイツ、フランス、イタリアで音楽現象学と指揮を学ぶ。

7年以上に亘り音楽や芸術の探究のため、舞台から遠ざかる。ミュンヘン大学で哲学を、ローマで芸術を学ぶ。さまざまな武術や東洋の作法を学び、空手では黒帯を持つ。90年代末に国際舞台に復帰。ヨーロッパ、南北アメリカで40回以上のリサイタルを開催。「舞台芸術のためのケネディーセンター」等からの榮譽を得る。

2004年にBMG/ソニー・クラシック・レーベルと独占契約を結ぶ。この録音が世界の主要な専門誌の高い評価を得る。

2009年にスペインにあるバレンポイン・サイド財団の国際アカデミーから、音楽現象学の講義を行うよう招へいを受ける。この講義はチェリビダッケが嘗て担当していたものである。

ドイツ、イタリア、米国、メキシコ、ペルーの大学や音楽院で講演、セミナー、マスターコースを行う。

**整理券お申し込み方法**

<FAX> チュキセンゴ公開講座 郵便番号・住所 氏名 FAX番号をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

なお、1通につき1名様とさせていただきます。

<往復はがき> 往信裏面に チュキセンゴ公開講座 郵便番号・住所 氏名をご記入いただき、返信宛先にはご自分の住所と氏名を、返信裏面は何も書かず白紙のまま下記住所までお送りください。なお、はがき1枚につき1名様とさせていただきます。

名古屋音楽大学 入試広報部 〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1

TEL.052-411-1545 FAX.052-411-1923

## 音楽的現象をめぐる探究

### 内 容

音楽に対する現象学的アプローチに基づく音楽的实践をめぐる探究。この研究は、音楽を学んだり理解したりするプロセスにおいて、演奏者の実践の質を向上させ彼らの芸術的アプローチをより深い次元へと進ませることを助けることで、理論面と実践面の間にあるギャップを狭めるのに役立つメンタルな道具を演奏者に対して提供することを可能とする。

探究しようとするのは、物理的な音が音楽的な音になることができる諸条件ということになる。思考を越えたまったくの生活経験のレベルに属する音楽という現象それ自体について説明しようとするのではない。このことは、音楽の「原初形態」としての音についての研究、および、その有機的な構造化のさまざまな可能性 - どのように音が音楽に『なる』のか - ということを含んでいる。補足すれば、音楽の生成において絶対的な要因として人間の意識に与える音の影響の探究である。この探究に一貫して流れる前提は、音楽についてのダイナミックな概念である。そこではあらゆる音楽的経験に含まれる有機的な一貫性という大きな奔流に出会うだろう。こうした観点から、実践的な作業(例えば、練習、即興、演奏)が、一連のセッションを補足することになる。

この講義-ワークショップは、異なる音楽領域の学生たち、若いプロミュージシャン、教師たちだけでなく、ひろい興味をもった聴衆を対象にしている。積極的に参加しようとする受講者には、音楽理論の基礎知識が要求され、比較的容易な作業として最後の演奏もあり、実際の練習への(基礎的なレベルでの)参加も要求される。

### 目 標

音楽的諸関係における内的な表現を発展させること。ただし、音楽外の領域から生まれる解釈や連想に訴えることはしない。すなわちそれらは二次的で付加的なレベルに属するからである。そうではなく、音楽的領域それ自体に注目の焦点を合わせ続ける。それは、魅惑的で多層化された音の諸関係におけるネットワークである。

音楽的現象における諸関係のうち本質的なものと非本質的なものとを識別するマインドを発展させること。後者の諸関係は個性の豊かさに依存しているが、前者の諸関係は必然性から現れる。

学習、勉強、リハーサル、指導といった音楽づくりの日常的局面に、この“生きている”知識を適用し構造化する能力を発展させること。